

平成28年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明		自己評価	行政評価
1 発信性のある自主事業を実施します。	1 自主企画展の年1回以上の開催	□新・今日の作家展2016 実施回数 □入場者数 □関連企画 事業数 □顧客満足度	1回 4,500名 2事業 4.0以上	1回 5,656名 6事業7回 4.5	B A A A	・「今日の作家展」開催一覧表を作成し、「新・今日の作家展2016」でパネル展示をしました。 ・「今日の作家展」開催一覧表を作成し、「新・今日の作家展2016」でパネル展示をしました。 ・「フォトヨコハマ2017」では連携1事業にとどまらず、貸館利用団体や民間ギャラリーへの参加呼びかけや、広報面、運営面でも積極的に協力しました。 ・同テーマで同時期に展覧会を実施するべく調整しましたが、同時期開催が不可能となったため、現代美術の展覧会をリレー展という形で開催し、「ヨコハマトリエンナーレ」を盛り上げる形で検討しました。平成30年度の実施に向け検討していましたが、平成29年度実施の可能性も出ました。 ・インターン1名のほか、中学生2名と高校生2名計4名の職業体験を受け入れました。 □「横浜音祭り」に寄与する事業の展開 事業数 □「フォトヨコハマ2017」との連携 事業数	【成果】 ・「新・今日の作家展」では横浜市民ギャラリーの歴史を尊重しながら今日活躍する作家を紹介したこと、また「季節をめぐる」という親しみやすいテーマで「コレクション展」を開催したことにより、幅広い層の市民が来場しました。いずれも出品作家が出演する関連企画の充実を図り、美術に親しみ理解を深める機会を提供しました。積極的な広報の効果もあり、入場者数はどちらも目標を1,000名以上上回る成果をあげることができました。 ・「フォトヨコハマ2017」では連携1事業にとどまらず、貸館利用団体や民間ギャラリーへの参加呼びかけや、広報面、運営面でも積極的に協力しました。 【課題】 ・助成金や協賛金の継続的な獲得のための方策の検討が必要です。 ・市の文化事業とどのように連携していくかが課題です。	【評価できる点】 ・「新・今日の作家展」は、目標入場者数4,500名に対して入場者数は5,656名と1,000名以上、「コレクション展2017」は、目標入場者数3,500名に対して入場者数は5,131名と1,500名以上上回り、多くの方に鑑賞されたことを高く評価する。また、両企画展とも関連企画の実施事業数が目標を上回っており、企画展と連動した事業を積極的に展開されたことにより、市民へ多様な美術の鑑賞機会を提供したことを評価する。 ・展覧会や収蔵作品のアーカイブ化に取り組んだこと、またホームページへ掲載したことにより、資料を広く公開したことを評価する。 ・「横浜音祭り」や「フォトヨコハマ」といった市の文化事業との連携事業では、目標を上回る事業数を実施しており、積極的に連携したことを評価する。 ・インターン生の受入れや鑑賞サポーターの育成及び活用にも取り組んでおり、市民の文化芸術への参画の場となったことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・横浜市民ギャラリーあざみ野との企画連携について検討が行われたので、今後はさらに具体化した検討が進められ、早期実施を期待する。
	2 収蔵作品を活用した展覧会の年1回以上の開催 コレクション展	□コレクション展2017 実施回数 □入場者数 □関連企画 事業数 □顧客満足度	1回 3,500名 2事業 4.0以上	1回 5,131名 3事業4回 4.6	B A A A			
	3 「今日の作家展」のWEB公開を目的としたアーカイブの実施	■「今日の作家展」の未整理の記録の整理 □関連作家等へのインタビュー 実施数	実施 2名	実施 3名	— A			
	4 収蔵作品等の積極的な公開とアーカイブの実施	□収蔵作品の作家へのインタビュー 実施数	1名	2名	A			
	5 横浜市民ギャラリーあざみ野との企画連携	■企画連絡会議の実施	実施	実施	—			
		■同テーマによる展覧会の企画の実施に向けた検討 ■「コレクション交換展」の共同開催に向けた検討	実施 実施	実施 実施	— —			
	6 インターン制度の発足	□学芸員や教育普及者、実技指導者を目標している学生を対象としたインターン制度参加者数	1名	1名	B			
	7 横浜市の文化事業との積極的な連携	□「横浜音祭り」に寄与する事業の展開 事業数 □「フォトヨコハマ2017」との連携 事業数	1事業 1事業	2事業 2事業	A A			
8 鑑賞サポーターの育成及び活用		□コレクションを解説するサポーターの活用のための育成研修 実施回数	1回	1回4日間	B			
2 次代を担う子どもの創造性教育事業を実施します。	9 「横浜子ども美術展」の実施と新たな取組	□企画展 実施回数 □入場者数 □出品数 □関連企画 事業数 □顧客満足度	1回 8,000名 2,300点 1事業 4.0以上	1回 15,705名 3,326点 3事業 4.6	B A A A A	【成果】 ・移転開館して3年目となり、子どものための事業が地域に定着してきました。「横浜子ども美術展」では、テーマ部門を新設したこと、及び過去の出品者である近隣小学校校長先生の取材記事が新聞に掲載されるなどの広報も功を奏したことで、出品数が目標を約1,000点上回り、入場者数も目標を約7,000名上回りました。 ・「ハマキッズ・アートクラブ」では子どもの成長に合わせたきめ細やかなプログラムを行い、子どもたちが自分自身の力で取り組み、やり遂げ、自信をつけることを手助けしました。また、参加者数は目標を100名以上上回り、満足度も4.8と高いものとなりました。 【課題】 ・「横浜子ども美術展」は出品作品数が増えることで人手不足等が発生するため、出品作品数のコントロールが課題です。 ・「ハマキッズ・アートクラブ」は子どもを対象とする事業のため、急なキャンセルが多く、それによる減収への取組の検討が課題です。	【評価できる点】 ・「横浜子ども美術展」は目標入場者数8,000名に対して入場者数は15,116名と7,000名以上上回ったことを高く評価する。また、「ハマキッズ・アートクラブ」の参加者数は目標を100名以上上回り、顧客満足度は4.8と高いものになったことを評価する。子どもの作品発表の場、文化芸術の体験の場を提供したことにより、次代を担う子どもの創造性教育につながったことを評価する。 ・横浜美術館及び横浜市民ギャラリーあざみ野との情報共有等により、連携が図られたことを評価する。 ・教育機関への支援やアウトリーチ等を着実に実施したことを評価する。	
		■テーマ部門「花を描こう」の新設 ■ワークショップスペースの設置	設置 設置	設置 設置	— —			
		□サポーターの募集、育成のための育成研修 実施回数 ■「横浜音祭り」と関連したアーティストとの交流の場の提供	1回 提供	1回 提供	B —			
		10 子どもの文化芸術の体験の場の提供と新たな取組 ハマキッズアートクラブ	□親子対象講座 実施回数 □年長児対象講座 実施回数 □小学校低学年対象講座 実施回数 □小学校高学年対象講座 実施回数	3回 2回 3回 2回	3回 2回 3回 2回			B B B B
			□横浜芸術アクション事業関連講座 実施回数 □参加者数 □顧客満足度	1回 200名 4.0以上	1回 304名 4.8			B A A
			□「横浜音祭り」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	2事業			A
	12 横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野の子ども事業との連携		□3館で事業連携し、講座内容や対象年齢を考慮した講座の開催のための企画会議 実施回数 ■3館での相互広報の体制作り 応募の落選者へ他館の講座を知らせる仕組みづくりを行う	1回 実施	1回 実施	B —		
		□親子で造形を楽しむ講座を開催 実施回数	2回	3回	A			
	14 教育機関等への支援の実施と新たな取組	□アートティーチャーズ・プロジェクトの取組みを共有し、＜美術の教師のための鑑賞レクチャー＞やく教師のためのワークショップ＞等の造形・鑑賞の指導 実施回数	1回	2回	A			
		15 横浜市芸術文化教育プラットフォーム『学校プログラム』への協力 16 鑑賞教室等のアウトリーチ等の実施	■横浜市芸術文化教育プラットフォームへの全面協力 □小学生、中学生、高校生を対象としたアーティストトークや鑑賞教室 事業数	実施 1事業	実施 1事業	— B		

I 文化事業目標	評価項目	H28年度計画		実施状況		評価		
		指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
3 市民やアーティストの創造活動支援を実施します。	17 (2)利用団体の展覧会についての積極的な広報	利用団体等が行う活動の支援の充実 (1)利用団体への丁寧な相談・助言	■事前打ち合わせの実施	実施	実施	—	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大人ののためのアトリエ講座」では、創作を主とする実技講座と、レクチャーや上映会といった教養講座を織り交ぜ、市民が多様な切り口から美術にアクセスできる内容としました。参加者数は目標200名に対して242名と上回り、満足度も4.6と目標を上回りました。誰もが気軽に参加できるような内容の講座を、多岐にわたったジャンルで開講することが幅広い層に向けたアプローチとなり、昨年度からのリピーターに加え、新規の利用者を迎えることができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用団体の高齢化と立地条件の悪さという中で、利用者数や来館者数の維持をどのようにするかが課題です。 ・大人ののためのアトリエ講座では、今後も幅広い層に参加していただけるような多様な講座を開催していくことが課題です。 <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大人ののためのアトリエ講座」は目標参加者数を40名以上上回り、顧客満足度も4.6と目標を上回ったことを評価する。また、顧客満足度は全講座4.5以上となり、受講者にとって満足度の高い講座が展開されたことを評価する。継続的な実施により固定化した講座と、新たな切り口により様々な展開を試みる講座の両方に取り組んだことにより、市民に多様な文化芸術の場を提供したことを評価する。 <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市民ギャラリーあざみ野との協働講座の実施に向けて検討が行われた。今後は平成30年度の実現に向けてより具体的に検討することを期待する。 ・TwitterやFacebook、ブログを活用した広報や事業内容の周知に積極的に取り組まれているため、今後はさらにSNS等を活用し、フォロワー数の増加を目指し、利用率の向上や来館者増につながる取組を検討することを期待する。 	
		(2)利用団体の展覧会についての積極的な広報	■<ヨコハマ・アートナビ><アートヨコハマ><横浜画廊散歩>での事前広報	実施	実施	—		<p>・「画廊散歩」や「アートヨコハマ」では横浜美術館の事業をピックアップ、横浜市民ギャラリーあざみ野とはそれぞれの情報誌で相互に事業を紹介したほか、展覧会会期に合わせてチラシやポスター掲示を効果的な場所に設置したり、SNSでも発信しました。</p> <p>・エントランス・送迎車内に新たにモニターを設置して映像を流し、併せてチラシを配架し広報しました。</p> <p>・空室情報を随時更新しました。</p> <p>・展覧会会場の様子を撮影し、会期初日にホームページで公開するとともにSNSでも発信しました。</p>
			■<ヨコハマ・アートナビ>への情報提供	実施	実施	—		
			□<アートヨコハマ> 発行回数	年3回	年3回	B		
	□<横浜画廊散歩> 発行回数		月1回	月1回	B			
	18 文化芸術の体験の場としての講座等の実施 (1)文化芸術の体験の場としての講座等の実施 大人ののためのアトリエ講座	■ホームページでの展覧会の紹介 会期初日にホームページ上で公開	実施	実施	—			
		□つくって学ぶ 実施回数	25回	25回	B			
		□きいて学ぶ 実施回数	4回	4回	B			
		□参加者数	200名	242名	A			
	19 美術情報の提供及び広報の充実 (1)横浜美術館との情報連携の強化	□顧客満足度	4.0以上	4.6	A			
		(2)横浜市の文化芸術事業との関連講座の開催	□「横浜音祭り」に寄与する事業の展開 事業数	1事業	1事業	B		
		美術情報の提供及び広報の充実 (1)横浜美術館との情報連携の強化	■広報連携の実施	実施	実施	—		
			■横浜市の文化政策上重要な事業について、映像情報等を交えたコーナーの設置と、広報する会期に合わせての紹介	実施	実施	—		
	(2)ホームページ、SNS等の活用による充実タイムリーな情報発信	■空室情報の更新 実施状況	随時実施	随時実施	—			
		■会期初日での展覧会情報の紹介	実施	実施	—			
		(3)広報誌の定期的な発行	□<アートヨコハマ>発行回数	年3回	年3回	B		
	□<ヨコハマ・ギャラリーマップ> 発行回数		年1回	年1回	B			
□<横浜画廊散歩> 発行回数	月1回		月1回	B				
20 市民参画等の協働の推進による美術振興の担い手育成 (1)文化芸術の情報の場としての強化及び集客キャンペーンの実施	■文化芸術の情報の場としての強化 情報コーナーの充実	実施	実施	—				
	□キャッチコピーによるキャンペーン 実施回数	1回	1回	B				
	(2)横浜市民ギャラリーあざみ野との共同講座の実施	■「美術品の扱い方」、「展覧会のつくり方」、「ワークショップのハンドリング」等の専門的な知識を得られる講座の実施のための検討	実施	実施	—			
		□ボランティアの活用(特にシニア層、中高生) 回数	1回	4回	A			
(3)自主企画展におけるボランティアの活用	■「チラシラックの整理に努め、欲しい情報が入手しやすい工夫をしました。」	—	—	—				
	■「専門的な知識を得られる講座の実施については、検討の結果、平成30年度以降の実施で29年度も継続して検討する事となりました。」	—	—	—				

平成28年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 創造活動を介した人々の関わり合いの場を提供します。	関連施設、民間ギャラリー、利用団体、ボランティア、アーティスト、学校教育間での相互交流の実施	■関連施設とのネットワーク インターネット情報、印刷物の相互配布	通年	通年	B	<p>・関連施設とのネットワークを形成し、HPへ施設情報の掲載、展覧会情報や印刷物の相互提供を行いました。</p> <p>・民間ギャラリーとのネットワークとして展覧会情報のHPへの掲載実施しました。HPの地図上にギャラリーの外観写真を新たに掲載し、より充実させました。</p> <p>・利用団体との交流として貸館利用打合せを通年で実施しました。</p> <p>・ボランティアの活用について「福島桜紀行」「音の展示-水の旋律」「横浜市こどもの美術展2016」「コレクション展2017」でボランティアを募集しました。</p>	<p>【成果】</p> <p>・計画通り市内の美術関係者との連絡をとりながら情報誌の発行をしました。特に「横浜画廊散歩」や「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」の発刊は、横浜市内の美術振興の一翼を担っております。</p> <p>・当館の展覧会等の告知だけではなく、横浜美術館の展覧会情報等に関する映像をエントランスのモニターで流すなど、他館との広報連携とともに来館者へわかりやすい美術情報を伝える取り組みを実施いたしました。</p> <p>・各美術関係者と連絡を取りながら「横浜画廊散歩」等の情報誌の発行をしました。</p> <p>・横浜市民ギャラリーからの呼びかけにより民間画廊の横浜市の事業である「フォト・ヨコハマ2017」への参加に寄与しました。</p> <p>【課題】</p> <p>・情報誌の発行を通じて培ってきている関連施設や民間ギャラリーとのネットワークや情報の蓄積を今後どのように生かすかが課題です。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・関連施設、民間ギャラリー、利用団体、ボランティア、アーティスト、学校教育という多方面とのネットワークの形成や継続について、目標に対し着実に取り組み、創造活動を介して人々が関わる場となるよう努めたことを評価する。</p> <p>・館内エントランス及び送迎車内にモニターを設置し、横浜市民ギャラリーだけではなく、市の文化事業や関連施設等の美術情報に関する映像を放映する取組を実施しており、自館だけではなく、他の美術関連事業についても広く提供することに取り組んだことを評価する。</p> <p>・自主企画展においてボランティアを活用し、市民が文化芸術活動の参画を通して社会貢献活動を行うことのできる場を提供したことを評価する。</p> <p>・民間ギャラリーとのネットワークを活用し、民間ギャラリーへ市の文化事業である「フォト・ヨコハマ2017」への参画を促進しており、民間ギャラリーと市の文化事業を仲介する役割を果たしたことを評価する。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>・「フォト・ヨコハマ2017」等、関連施設や民間ギャラリーとのネットワークを活用した活動が見受けられたが、今後は今まで蓄積された各方面とのネットワークをより活用し、相互交流により広く情報が発信され、文化芸術活動が市民に周知されるように取り組むことを期待する。</p>
		□民間ギャラリーとのネットワーク ＜横浜画廊散歩＞ 発行回数	月1回	月1回	B			
		□民間ギャラリーとのネットワーク ＜ヨコハマギャラリーマップ＞ 発行回数	年1回	年1回	B			
		■民間ギャラリーとのネットワーク 展覧会のホームページへの掲載	掲載	掲載	—			
		■利用団体との交流 貸館利用打ち合わせの実施	通年	通年	—			
		□ボランティアの活用 横浜こどもの美術展、コレクション展での募集	2事業	4事業	A			
		□アーティストとのネットワーク アトリエ講座 実施回数	29回	29回	B			
		□アーティストとのネットワーク 展覧会 実施回数	3回	3回	B			
□学校教育とのネットワーク アートティーチャーズ・プロジェクト 実施回数	2回	2回	B					
□学校教育とのネットワーク アウトリーチ 実施回数	1回	2回 (2校4日)	A					

評価項目		H28年度計画			実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 創造活動の発表の場を提供します。	<p>公平・公正かつホスピタリティの高い貸出業務</p> <p>(1)多くの市民に利用してもらえるような公平・公正で、透明性の高い施設貸出</p> <p>(2)利用団体への丁寧な相談・助言</p> <p>(3)利用団体の展覧会についての積極的な広報</p> <p>(4)エリアを通じた施設周知</p> <p>(5)横浜市民ギャラリーあざみ野との連携による情報提供</p>	□全展示室利用団体の抽選会 実施回数	年1回	年1回	B	<p>・抽選後の空室を先着順に受付しました。</p> <p>・当日の利用申込みの実績はありませんでした。</p> <p>・利用団体からのアンケートを職員内で情報共有。利用状況によって掲示物の表記方法を変更するなど運営に活かしました。</p> <p>・利用者の経験等を鑑みながら、きめ細やかな運営サポートを行い、安心して展覧会が開催できるよう支援しました。</p> <p>・「アートヨコハマ」のほか「画廊散歩」HPに開催情報を掲載したほか、「ヨコハマ・アートナビ」への情報提供を行いました。</p> <p>・全ての展覧会初日に会場風景を撮影、HPで紹介したほか、展覧会情報をFacebook、twitterに掲載するなど、利用者の展覧会への広報支援を行いました。</p> <p>・年齢層が高い団体には脚立に乗る作業を手伝ったり、作品の展示に関する相談に乗ったり、利用者ごとに柔軟に対応しました。</p> <p>・町内会・伊勢山皇大神宮・横浜成田山・横浜市従会館と情報交換を密に行いました。</p> <p>・市民ギャラリーあざみ野と相互に情報誌への掲載、チラシ配架、ポスター掲示、SNS発信、エントランスモニターでの告知映像放映等の広報連携を実施しました。</p> <p>・空室情報の共有は今年度は着手できませんでした。次年度以降に着手します。</p>	<p>【成果】</p> <p>・利用団体の展覧会について、「アートヨコハマ」、「画廊散歩」、ホームページ、Facebook、twitterに開催情報を掲載したほか、「ヨコハマ・アートナビ」への情報提供を行いました。また、利用団体の全ての展覧会の初日に会場風景を撮影し、ホームページで紹介するなど利用者への広報支援を行いました。</p> <p>・利用者へのきめ細やかな運営サポートを行い、安心して展覧会が開催できるように支援し、4.7という高い満足度をいただきました。</p> <p>・伊勢山皇大神宮へ当館のチラシを置くチラシラックの設置や、町内会掲示板にて自主事業の周知にご協力いただいたほか、町内会での夏祭クイズにて横浜市民ギャラリーを出題していただくなど、エリアを通じた施設周知を図ることができました。</p> <p>【課題】</p> <p>・貸館利用者の展覧会について、多面的な広報支援はしているものの、利用団体によって展覧会の集客数に差があり、全ての展覧会が大勢のお客様に足を運んでいただけるように、更なる支援の方法を探っています。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・展示室の貸館利用の運営について、目標に即した着実な運営が行われたことにより、利用者へ公平・公正かつ安定した展示室の貸館利用の機会が提供されたことを評価する。</p> <p>・展示室の貸館利用者のアンケート回収率は93%となり、満足度は目標4.0に対して4.7と上回っていることを評価する。満足度の高さは、利用団体への丁寧なサポート実施に努めた結果が出たことによると考える。</p> <p>・貸室の利用団体への支援に継続的に取り組んだことを評価する。利用団体への広報支援として、各種広報誌で取り上げたほか、展覧会会期初日にホームページへ掲載する等、積極的に協力したことを評価する。</p> <p>・近隣との協力関係の構築及び継続による施設周知を実施し、施設の認知度向上に取り組んだことを評価する。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>・横浜市民ギャラリーあざみ野との空室情報の共有については未実施となったので、今後は施設間連携によるサービスの提供の確実な実施を期待する。</p> <p>・関連施設や近隣との関係性を活かした連携により、今後はより広範で効果的な広報を期待する。</p>
		■抽選会後の空き室 先着順に受付	実施	該当なし	—			
		■当日の利用申込み等の緊急時の、安全を確認した上での対応	実施	実施	—			
		■利用団体からのアンケートを運営に活かすための職員内での情報共有	実施	実施	—			
		□利用団体からのアンケート 回収率	80%以上	93%	B			
		□施設スタッフ全員での定期ミーティング開催回数	月1回	月1回	B			
		■展覧会開催・終了までの利用打ち合わせ・展示作業及び展覧会会期中の運営サポートや広報面での助言協力	実施	実施	—			
		□アンケート満足度	4.0以上	4.7	A			
		■＜アートヨコハマ＞への開催情報の掲載	実施	実施	—			
		■会場風景のホームページでの紹介、展覧会情報のFacebook・Twitterへの掲載	実施	実施	—			
■利用者ごとの柔軟な対応	実施	実施	—					
■近隣・コミュニティとのリレーションシップによりエリアを通じた施設周知を図るための近隣・コミュニティとの連絡会の開催	開催	開催	—					
■広報連携	実施	実施	—					
■空き室情報の共有	実施	未実施	C					

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
2	適切な施設情報発信等による認知度向上への取組強化	■施設情報の適切な発信による施設の認知度アップへの取組	実施	実施	・ホームページやSNSで展覧会情報、自主事業情報、空き室状況、送迎車情報を発信し、認知度アップに取り組みました。 ・利用者に必要とされる施設情報を考察し、ホームページに掲載しました。 ・利用の手引きを改訂し、利用団体へ積極的に配布しました。	【成果】 ・一度使ってくださいの方が、リピーターになり、さらに他の方に薦めてくださるという事例がありました。これはスタッフ一人一人が利用者へ親身となった対応を心掛けた成果だと考えています。 ・今まで利用をいただいた団体で、次年度の申込が無い団体に積極的にお声掛けをしたり、抽選で外れた団体に代替案を提示するなど地道な積み重ねにより、空き室申込につなげることができました。 ・送迎車について、より利便性の高い車種を導入したと共に、利用者の利便性向上を図るため、運行スケジュール等を見直しました。また、ポケット時刻表の配布等による周知に努めた結果、利用者数が前年度と比べ約7,500人(前年比133%)増加しました。	【評価できる点】 ・利用率について、展示室は実績が91%となり目標を6%、アトリエは実績が43%となり目標を13%、駐車場は実績が28%となり目標を8%と、それぞれの利用率が目標値を上回ったことを高く評価する。 ・選定時の提案である障がい児・者を中心とした作品展の支援として「社会福祉法人青い鳥設立50周年記念展 ひろげよう ぼくのつばさ わたしのつばさ展」を着実にいき、芸術を通じた障がい児・者支援を行ったことを評価する。 ・送迎車について、車をリニューアルし、運行スケジュールの見直しを図る等して利用者の利便性向上に努め、また、ホームページへの案内や運行スケジュールのポケット版を作成して配布する等、積極的な広報にも取り組み、さらなる改善に向けた取組を実施したことを評価する。
		■ホームページでの施設情報の周知	実施	実施			
3	空き室の有効利用等の利用促進のための取組の拡充	■全展覧会のFacebook、Twitterでの紹介	全展覧会	全展覧会	・空室の直前割引は、該当が有りませんでした。 ・空室の個別の営業活動として、過去団体への改訂した「利用の手引き」の送付や、次年度の申込が無い団体への積極的な声掛けを行いました。 ・アトリエに特化したチラシ・告知動画を作成しました。 ・美術関連の学校、学部への周知・営業活動として、美術大学向けのチラシを作成し、送付しました。 ・学生の芸術活動の育成について、今年度は該当有りませんでした。 ・5/27-29 YCAG ARTIST INCUBATION PROGRAM「音の展示 水の旋律」	【課題】 ・自主事業として空室を活用し、アーティストの創造活動支援や、音楽コンサート等を開催し、空室を有効利用することができた反面、前年度利用団体のアクセス面への不満を理由とした利用手控えによる空室を埋めることができませんでした。同じ理由からアトリエ利用も伸びず、今後も貸出施設の利用促進が課題です。	【改善が必要と考えられる点】 ・来館者数が目標を下回っている。来館者数は、貸館の利用に拠る面もあるが、平成27年度の年間来館者数と比較しても約18,000人下回っているため、来館者数減の理由の分析と、来館者数増への取組の検討が必要である。今後は自主事業のさらなる効果的な広報による集客や、利用率の向上に向けた取組の実施等を期待する。 ・展示室の貸室利用について、空室の直前割引や学生の芸術活動支援のための割引の実績がなかったため、今後は割引制度のさらなる周知等を行い、空室の有効利用がより促進されることを期待する。 ・アトリエの貸室利用の利用率について、目標は達成しているものの、利用率43%は高いとはいえない。そのため、アトリエの貸室利用については、さらなる活用が望まれる。今後は利用促進のための方策を検討し、効果的な周知方法等の実施により貸室利用の増加に向けての取組と共に、自主事業でのアトリエ活用の検討等を期待する。
		■利用案内の発行	実施	実施			
		■積極的な施設貸出の営業	実施	実施			
		■ホームページでの空き室情報の公開 実施状況	随時	随時			
		■美術関係者・団体とのネットワーク拡大による個別に営業をかけられる体制の構築	実施	随時実施			
		■抽選に外れた全利用者への代替案の提案	実施	実施			
		■空室の直前割引 利用日より6か月を切った利用申請の50%減免	実施	該当なし			
		■空室の個別の営業活動	実施	実施			
		■アトリエに特化した広報物の作成	実施	実施			
		■美術関連の学校、学部への周知・営業活動	実施	実施			
4	利用率の向上と目標指標の達成(平成32年度目標) 展示室:90% アトリエ:35%	■空室の直前割引 利用日より6か月を切った利用申請の50%減免	実施	該当なし	■職員ミーティングではお客様への対応の確認について日常的に議題にあげました。 ・お客様アンケートを随時行いました。 ・苦情・要望には速やかに対応し、再発防止のために市と意見交換・情報共有しました。 ・横浜市との情報共有を随時行いました。 ・改善事例は送迎車の定員増、本数増などHP上で公開しました。	・展示室の貸室利用について、空室の直前割引や学生の芸術活動支援のための割引の実績がなかったため、今後は割引制度のさらなる周知等を行い、空室の有効利用がより促進されることを期待する。	
		■空室の個別の営業活動	実施	実施			
		■アトリエに特化した広報物の作成	実施	実施			
		■美術関連の学校、学部への周知・営業活動	実施	実施			
5	要望・苦情への適切な対応とその共有の実施	■職員ミーティングでのお客様への対応の確認 実施状況	随時	随時	・職員ミーティングではお客様への対応の確認について日常的に議題にあげました。 ・お客様アンケートを随時行いました。 ・苦情・要望には速やかに対応し、再発防止のために市と意見交換・情報共有しました。 ・横浜市との情報共有を随時行いました。 ・改善事例は送迎車の定員増、本数増などHP上で公開しました。	・展示室の貸室利用について、空室の直前割引や学生の芸術活動支援のための割引の実績がなかったため、今後は割引制度のさらなる周知等を行い、空室の有効利用がより促進されることを期待する。	
		■お客様へのアンケートの実施と共有 実施状況	随時	随時			
		■苦情・要望の分析と共有 実施状況	随時	随時			
		■速やかな対応と再発防止のための情報共有 実施状況	随時	随時			
		■横浜市との情報共有 実施状況	随時	随時			
6	芸術を通じた障がい児・者支援	■改善事例のホームページでの公開 実施状況	随時	随時	・8/17-21「社会福祉法人青い鳥設立50周年記念展 ひろげよう ぼくのつばさ わたしのつばさ展」	・展示室の貸室利用について、空室の直前割引や学生の芸術活動支援のための割引の実績がなかったため、今後は割引制度のさらなる周知等を行い、空室の有効利用がより促進されることを期待する。	
		■発達障がい児・者を中心とした作品展事業数	1事業	1事業			
7	市民の芸術活動の深化のための取組の実施	■市民が交流し、情報交換や知識収集のできる環境の整備 閲覧スペースの設置 実施状況	随時	随時	・エントランスに机・椅子・チラシラック等を設置し、各地の展覧会情報を見られるスペースとしました。	・展示室の貸室利用について、空室の直前割引や学生の芸術活動支援のための割引の実績がなかったため、今後は割引制度のさらなる周知等を行い、空室の有効利用がより促進されることを期待する。	
		■町の美化や町内行事の参加だけでなく、共に施設のPR等を行う	実施	実施			
8	宮崎町親和会(町内会)や伊勢山皇大神宮との協力体制構築	■宮崎親和会での事業周知 実施状況	随時	随時	・町内会掲示板で自主事業の周知に随時ご協力いただいた。 ・伊勢山皇大神宮に当館のチラシラック設置とポスター掲示随時	・展示室の貸室利用について、空室の直前割引や学生の芸術活動支援のための割引の実績がなかったため、今後は割引制度のさらなる周知等を行い、空室の有効利用がより促進されることを期待する。	
		■伊勢山皇大神宮の参拝客へのアピール 実施状況	随時	随時			
		■伊勢山皇大神宮とのエリア周知活動の取組 事業回数	1事業	1事業			
9	送迎車の最適な運用の実施	■桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車椅子利用等の利用にも配慮した)無料の送迎車の走行	実施	実施	・桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車椅子利用等の利用にも配慮した)無料の送迎車の走行を行いました。 ・展覧会に即して着実に運行しました。 ・館内、ホームページのほかポケット時刻表を桜木町観光案内所で配布。 ・運行データを収集しました。	・展示室の貸室利用について、空室の直前割引や学生の芸術活動支援のための割引の実績がなかったため、今後は割引制度のさらなる周知等を行い、空室の有効利用がより促進されることを期待する。	
		■展覧会に即した着実な運行	実施	実施			
		■館内、ホームページでの周知	実施	実施			
		■運行データの収集	実施	実施			

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
3 市民ギャラリー所蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示の実施	収蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示の実施	■作品の定期的な点検	実施	実施	・作品の定期的な点検:12/20,21,25,26,1/5,9に実施 ・作品データの継続更新、作品リストの分類の見直し、画像データ960件入力	【成果】 ・展覧会等を通じて作品を紹介することにより、収蔵作品の活用を図りました。 ・収蔵作品のIPMを実施し、収蔵作品データベースの更新を行ったことで、作品の適切な収蔵・保管ができました。	【評価できる点】 ・収蔵作品の定期点検の実施と作品データの継続的に更新する等、収蔵品について適切な管理を実施したことを評価する。 ・ホームページへの収蔵作品の掲載や展覧会を通し、広く収蔵作品を紹介したことを評価する。
		■作品データの更新	実施	実施			
	□コレクション展 実施回数	1回	1回	B			
	□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数	12点	12点	B			
資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な充実及び台帳の継続的な管理と収蔵作品の公開の実施	資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な充実及び台帳の継続的な管理と収蔵作品の公開の実施	■資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースを継続的な更新	実施	実施	・作品データの継続更新、作品リストの分類の見直し、画像データ960件入力	【課題】 ・収蔵作品約1,300件のデータベースの管理と作品の計画的な修復が課題です。	【改善が必要と考えられる点】 ・収蔵作品の適切な管理及びデータベースの継続的な更新が今後も必要である。収蔵品は現在もホームページで公開されているが、今後は公開点数を計画的に増やす等、より内容を拡充したデータベースの掲載を期待する。
		□コレクション展 実施回数	1回	1回			
□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数	12点	12点	B				
4 運営組織の構築及び組織的な運営をします。	適切な運営組織体制と人材の配置	■人材配置 館長:1名、事業責任者:1名、運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:1名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:1名、警備チーフ:1名、常勤アルバイト:2名、短期アルバイト:3名 ■勤務体制 ローテーション体制 主催事業や貸館内容に応じ、勤務体制を調整し、柔軟に対応する。 事務室スタッフ 原則常時5名以上 設備管理スタッフ 開館時:設備1名、警備2名、清掃1名 4名以上 閉館時:警備1名	配置	配置			
組織内の情報共有及び主要人材の能力担保	□定例会の実施 実施回数	月1回	月1回	B			
組織的な施設運営のための職務の効率化や職員間の情報共有、業務改善のための会議を定期的に実施すると共に、職員の能力担保のためOJT及び定期的な研修等を実施	□研修 実施回数	年2回	年2回	B			
5 本市の重要施策を踏まえ取り組みます。	個人情報保護についての取組	■個人情報保護は規定及びマニュアル等に基づき適切に取り扱う ■具体的な業務についてルール化し、研修や定期的なミーティングによりスタッフの個人情報取扱いに対する意識の向上 ■メールやFAX、郵便物の送付時の個人情報漏えいの防止 ■個人情報の適切な管理の徹底	実施	実施	・マニュアルに基づき適切に取り扱いました。 ・コンプライアンス委員会を中心に研修や情報共有のミーティングを実施しました。 ・ダブルチェックの徹底等を実施しました。	【成果】 ・研修やミーティングを通じてコンプライアンスの取組みや、危機管理についての知識や意識を共有し、職員全員で取り組むことができました。 【課題】 ・今年度は事故等ありませんでしたが、気を緩めることなくコンプライアンスや危機管理に継続的に取り組んでいきます。	【評価できる点】 ・個人情報の適切な取り扱いや環境配慮への取組の実施等について、目標通りに適切に業務を遂行したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。
情報公開についての取組	■規定に基づき適切な対応 ■事業計画書及び事業報告書の財団ホームページでの公開	実施	実施	・情報公開請求はありませんでした。 ・事業計画及び事業報告書を財団HP,当館HPで公開しました。			
人権尊重についての取組	■全ての人に開かれた施設として人権に配慮した運営や接遇の実施 ■横浜市主催の人権講習への職員の参加と、職場内の研修での人権尊重の意識を高める取組の実施 □研修 回数	実施	実施				
環境への配慮に関する取組	■環境への負荷の低減を意識した省エネルギー化、省資源化 ■「市役所ごみゼロ」「横浜市脱温暖化行動方針」「横浜3R(スリム)プラン」に基づく施設管理 □施設内での空気環境測定 実施回数	実施	実施	・こまめな消灯、適切な空調の温度設定等を実施しました。 ・ゴミの分別を実施し、紙の再利用を上げる等行いました。			
市内中小企業優先発注についての取組	■物品購入・委託等の、特別な専門性が必要等の理由がない場合を除く、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」に登録された企業への発注	実施	実施		・原則として横浜市の「物品・委託有資格者名簿」登録の市内中小企業への優先発注を実施しました。		

平成28年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

Ⅲ維持管理目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H28年度計画			実施状況		評価	
		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設、設備の維持保全及び管理をします。	1 PDCAサイクルに基づく、計画的で高品質な施設管理業務の実施	■施設・設備について高品質で効率的な定期点検及び日常点検の実施	実施	実施	・経験豊富な専門職員による日常点検の実施 ・データ共有・蓄積、連絡体制を整え市へ速やかな報告を実施しました。	【成果】 ・施設、設備の維持保全については、日常的に点検を実施し、不具合発生時にはきめ細やかな対応を行ったことで、設備トラブルもなく、安全・安心で快適な施設の維持・保全を行いました。 【課題】 ・収蔵庫の管理について、収蔵作品の適切な管理のための収蔵庫の温湿度管理とIPMの継続的な実施が継続して必要とされます。 ・改修前からの建物の不具合が課題です。	【評価できる点】 ・施設及び設備の管理について、適切に業務を遂行したことを評価する。また、利用者アンケートでの快適評価が目標4.0に対して4.5と上回っていることを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・特筆すべき事項なし。	
		■施設(建築物)、設備及び備品の破損、不具合等の異常時の利用者の安全の確保、施設の運営に支障をきたすことのない適切な措置、速やかな報告の実施	実施	実施				
	□設備の過失による運転停止事故ゼロ	0件	0件	B				
	■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できる管理の実施	実施	実施	―	・施設の状態を常に清潔に保ちました。			
2 施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	□アンケートでの快適評価 □施設ハード面での過失による事故ゼロ	4.0以上	4.5	A	・通年で日常点検を記録し、共有しました。 ・備品を適切かつ良好な状態で管理しました。 ・廃棄物の排出量を把握し、減量や分別・リサイクルへ努めました。			
		0件	0件	B				
3 保守点検、備品管理、環境維持の実施	■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有	実施	実施	―				
	■備品の適切かつ良好な状態での管理 ■廃棄物の排出量を把握し、減量や分別・リサイクルへ努める	実施	実施	―				
4 収蔵庫の適切な管理の実施	■空調管理の実施	実施	実施	―	・データを蓄積しながら日常的に温湿度の動きに注視し、適切な管理を実施しました。 ・定期的に清掃しました。			
	■収蔵庫内及び収蔵庫周辺の定期的な清掃	実施	実施	―				
2 小破修繕へ取り組めます。	5 効果的な小破修繕への取組	■施設管理に対する全職員の意識の向上	実施	実施	・情報共有や会議で取り上げるなど意識向上に努めました。 ・施設内での情報共有、モニタリングや報告書等での横浜市との共有。 ・修繕履歴の年度ごとのデータ化をしました。	【成果】 ・管理スタッフによる日常点検や運営スタッフによる巡回を通して、修繕箇所の発見や早期の対応を行い、施設の長寿命化及び館内サービスに影響の出ない施設運営に努めました。 【課題】 ・今後経年劣化等修繕の必要な箇所が増えてくると思われます。管理スタッフとの定期的なミーティングで、今後必要となる修繕箇所や対応等を共有し、早期の発見や速やかな対応を行いたいと考えています。	【評価できる点】 ・自主点検や全修繕履歴のデータ化、市との情報共有や小破修繕を適切に実施したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後も引き続き修繕が必要な箇所の早期の把握に努め、小破修繕箇所については順位付けの実施等により適切な修繕を実行し、継続して施設の長寿命化に努めることを望む。	
		■全職員及び横浜市との情報の共有	実施	実施				―
		■全修繕履歴の年度毎のデータ化	実施	実施				―
	6 保守管理の専門技術を活かした、迅速かつ臨機応変な突発修繕への対応	■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対応	実施	実施	―			・豊富な経験を有する専門職員を中心に突発的な修繕も速やかに対処しました。
7 多角的視点からの小破修繕箇所の早期発見	■定期点検や日常点検、横浜市の施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応	実施	実施	―	・ガイドラインだけではなくインターネットや他施設の情報など、多角的な知見を得て業務に対応しました。			
3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理を行います。	事故防止体制・緊急時のための方針と対策 (1)警備スタッフ及び機械警備による切れ目のない万全の警備体制の実施	■警備専門スタッフと機械警備による万全の警備体制の実施	実施	実施	・人的警備と機械警備で切れ目なく警備しました。 ・業務の基準に基づき入退出の管理をしました。 ・関連法規等を遵守しました。 ・警備計画書および巡回警備計画書の作成とそれに基づく警備業務を実施しました。 ・警備スタッフによる警備及び機械警備の業務日誌の作成と共有を実施しました。	【成果】 ・事故防止体制・緊急時のための方針と対策を実施し、事故や事件の発生はありませんでした。 ・AEDを使用するような事例はありませんでしたが、毎日の目視によるセルフメンテナンスチェックを行い、必要な場合は使用できるように適切な管理を行いました。 【課題】 ・達成指標に則して基本的な対応をしてきましたが、想定外のことも考えられるので、今後も外部からの情報に注意し、様々なことに対応できるよう常に備える必要があります。	【評価できる点】 ・AEDの適切な管理や感染症防止の取組等、適切な事故防止及び緊急時の対応のための取組を遂行したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・引き続き事故防止及び緊急時の対応について検討し、館全体での共有が図られることを望む。	
		■業務の基準に基づく警備の実施と利用者の入退出の適切な管理	実施	実施				―
	(2)関連法規の遵守	□過失による事故ゼロ	0件	0件	B			
		■業務を遂行する上での、定められた関連法規等の遵守	実施	実施	―			・近隣の防犯や交通状況への対応など周辺道路へも防犯対策を実施しました。
	8 (3)警備計画及び報告書の作成と適切な報告の実施	■警備計画書及び巡回警備計画書の作成とそれに基づく警備業務	実施	実施	―			・救急セット、AEDを完備しました。 ・AEDは毎日目視によるセルフメンテナンスチェックの結果確認をしました。
		■警備スタッフによる警備及び機械警備の業務日誌の作成と共有	実施	実施	―			
	(4)施設内外への防犯対策の実施	■警備スタッフによる施設の駐車場だけではなく周辺道路への防犯対策の実施	実施	実施	―			
		■救急セットやAEDの完備	実施	実施	―			
	(5)救急セットやAED等の設置と十分な研修の実施	□AED取扱い研修 実施回数	1回	1回	B			
■毎日のAEDのセルフメンテナンスチェックの結果確認		実施	実施	―				
9 インフルエンザ等の感染症対策	■職員による施設内巡回による衛生管理の徹底	実施	実施	―	・施設内巡回による衛生管理を徹底しました。 ・予防のための掲示を実施しました。 ・消毒剤を設置しました。 ・鳥インフルエンザの発生はありませんでしたが、異常時に備えて留意しました。 ・汚物の処理キットを備え、処理時の手袋・マスクの装着を徹底しました。			
	■インフルエンザ等の流行時の予防のための取組み 予防のための掲示の実施	実施	実施	―				
	■インフルエンザ等の流行時の予防のための取組み 消毒剤の設置	設置	設置	―				
	■鳥インフルエンザへの留意と異常時の迅速な対応	実施	実施	―				
	■汚物の処理にあたっての準備及び処理時の手袋・マスクの装着の徹底	実施	実施	―				

Ⅲ維持管理目標	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H28年度計画		実施状況		評価		
		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 防災に関し取り組みます。	10 緊急時の連絡体制・役割分担	■緊急時の対応の明確化	実施	実施	—	■緊急時の対応を明確化しました。 ■緊急連絡網を作成し、市へ提出しました	【成果】 ・年2回の消防訓練を通じて防災意識を高め、災害発生に備えました。 【課題】 ・近年地震が多く、その都度施設点検等の対処はしていますが、展覧会開催中に未曾有の大きな地震が起こった場合などを想定した訓練が、今後必要となってくると考えています。	【評価できる点】 ・消防訓練の実施や備蓄品の準備等、防災時及び発災時に向けた取組を実施したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後も状況別の想定をした訓練を実施する等、実際の発災時に近い訓練を実施することを期待する。
		■関連法規に基づいた届出等の実施	実施	実施				
	■危機管理マニュアルの作成	実施	実施	—	・定期的な会議を持ち、消火栓や器具などの設置場所を実際に確認するなど有事に備えました。			
	■全スタッフへの普通救命講習や訓練	実施	実施			—		
11 平常時の防災対策	□危機管理マニュアルに基づくスタッフの消防訓練 実施回数	2回	2回	B	—		・災害は発生しませんでした。発災時へ備え消防訓練を2回実施したほか、地震発生時には館内点検を実施し、報告しました。 ・日常的に館長への情報集約を実施しました。 ・消防署員から災害発生に対する心構えや事例をお話しいただき、2次災害発生防止措置を図ることを再確認しました。	
	■自衛防災組織の設置と継続的な防災訓練の実施	実施	実施	—		・災害は発生しませんでした。発災時へ備え消防訓練を2回実施したほか、地震発生時には館内点検を実施し、報告しました。 ・日常的に館長への情報集約を実施しました。 ・消防署員から災害発生に対する心構えや事例をお話しいただき、2次災害発生防止措置を図ることを再確認しました。		
12 災害発生時の取組	■町内会と防災関連の協議の実施と、地域ぐるみの合同訓練等の提案	実施	実施		—		・災害は発生しませんでした。発災時へ備え消防訓練を2回実施したほか、地震発生時には館内点検を実施し、報告しました。 ・日常的に館長への情報集約を実施しました。 ・消防署員から災害発生に対する心構えや事例をお話しいただき、2次災害発生防止措置を図ることを再確認しました。	
	■関連法令、条例、業務の基準に基づく来館者の安全確保を最優先とした適切な対応	実施	実施	—		・災害は発生しませんでした。発災時へ備え消防訓練を2回実施したほか、地震発生時には館内点検を実施し、報告しました。 ・日常的に館長への情報集約を実施しました。 ・消防署員から災害発生に対する心構えや事例をお話しいただき、2次災害発生防止措置を図ることを再確認しました。		
13 帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	■情報管理の一元化及び適切な報告	実施	実施		—		・災害は発生しませんでした。発災時へ備え消防訓練を2回実施したほか、地震発生時には館内点検を実施し、報告しました。 ・日常的に館長への情報集約を実施しました。 ・消防署員から災害発生に対する心構えや事例をお話しいただき、2次災害発生防止措置を図ることを再確認しました。	
	■二次災害の発生防止措置の実施と、横浜市等との協議の上での適切な対応	実施	実施	—		・災害は発生しませんでした。発災時へ備え消防訓練を2回実施したほか、地震発生時には館内点検を実施し、報告しました。 ・日常的に館長への情報集約を実施しました。 ・消防署員から災害発生に対する心構えや事例をお話しいただき、2次災害発生防止措置を図ることを再確認しました。		
	□全スタッフの対応の徹底を図るための消防訓練 実施回数	2回	2回					B
■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄	実施	実施	—		・15人×3日分の非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布の備蓄 ・災害は発生しませんでした。発災時には適切な情報収集を行うことをスタッフ内で確認しました。 ・災害鎮静後には危機管理マニュアルに基づき適切に対処し、現状復旧体制をとることをスタッフ内で確認しました。			
■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保のための取組	実施	実施		—		・15人×3日分の非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布の備蓄 ・災害は発生しませんでした。発災時には適切な情報収集を行うことをスタッフ内で確認しました。 ・災害鎮静後には危機管理マニュアルに基づき適切に対処し、現状復旧体制をとることをスタッフ内で確認しました。		
■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対処と現状復旧体制の確保のための取組	実施	実施					—	・15人×3日分の非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布の備蓄 ・災害は発生しませんでした。発災時には適切な情報収集を行うことをスタッフ内で確認しました。 ・災害鎮静後には危機管理マニュアルに基づき適切に対処し、現状復旧体制をとることをスタッフ内で確認しました。

Ⅳ収支	評価項目 指定管理者提案(要旨)	H28年度計画		実施状況		評価		
		達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 収支の適切な構造及び収支バランス	1	(収支予算書及び報告書) ■適切な収支構造、収支バランスの確保	実施	実施	—	・9,541,970円の黒字	【成果】 ・収入面は利用料金の未達分は助成金の獲得や、担当スタッフによる効率的な駐車場運営や空きスペースを近隣施設利用者へ貸出すなど駐車場収入の増を目指し、また、横浜音祭りのリレーション事業における補助金等の獲得でカバーしました。 ・支出面は光熱水費の削減に努め、予算を下回る支出となりました。 ・可動壁の修繕や収蔵庫高性能フィルター設置等、設備の充実を図りました。 【課題】 ・アクセス面への不評で施設利用が伸びず、見込より利用料金収入が下回りました。今後、アクセス面の不評を補う施設環境の整備やきめ細やかなサービスを充実させることで、利用料金を上げていきたいと考えています。 ・事務費については、光熱水費の状況を鑑みながら、より良い環境実現のために展示用ワイヤー購入等、設備の充実へと経費を調整いたしました。また財団本部より配置される人員の実際の人件費が、結果、予算と差異のある数値で、そのまま全体の収支結果となりました。今後、気候や利用状況に大きく左右される光熱水費の執行状況や人件費について常に把握をし、必要に応じて事務費、事業費を調整しながら、効果的な執行をしてまいります。	【評価できる点】 ・収入合計が予算と比較して120万円以上上回ったことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・利用料金収入が目標を下回っており、改善の余地があると考え。今後も継続して効率的な資金計画を立て、収支のバランスに配慮した運営を期待する。

平成28年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

IV収支	評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
2 指定管理料のみに依存しない収入構造	2	利用率の向上による利用料金収入の増加への取組	□利用料金収入(駐車場を除く)	1,150万円	9,971,590円	C	【成果】 ・助成金及び協賛金は目標に対して約97万円、駐車場利用料は目標に対して50万円以上上回り、目標以上の金額を達成しました。 【課題】 ・利用料金の目標達成が課題です。快適な施設環境やサービスの充実等、アクセス面への不評を補う取組を行い、利用を増やす必要があります。	【評価できる点】 ・駐車場利用料金が目標を約50万円上回ったことを評価する。近隣施設への空き状況の提供等、利用促進に向けた取組の成果だと考える。 ・助成金・協賛金が目標を約97万円上回ったことを高く評価する。また、現物協賛も獲得しているほか、広告料も目標を10万円上回っており、指定管理料のみに依存しない収入構造の構築を評価する。 ・自動販売機の売上金額が目標を約20万円上回っていることを評価する。自動販売機の設置業者との調整を図り、利用状況に合わせた販売の実施がされた成果だと考える。 【改善が必要と考えられる点】 ・利用料金収入が目標を約150万円下回った。利用料金収入確保に向けた営業活動等を実施しているが、今後はさらに効果的な利用促進のための方策を検討し、実施することを期待する。
	3	周知等による駐車場の利用料金収入の増加への取組	□駐車場利用料金収入	80万円	1,311,100円	A		
	4	助成金・協賛金(広告料収入)の獲得	□助成金・協賛金	30万円	1,277,000円	A		
			□広告料	35万円	450,000円	A		
	5	周知等による講座料収入の増加への取組 周知等により事業参加者数の増加を目指す	□大人のアトリエ講座 参加者数	200名	301名	A		
			□ハマキッズアートクラブ 参加者数	200名	315名	A		
6	自動販売機の販売収入の増加への取組	□自動販売機販売収入額	24万円	475,858円	A			
3 経費削減等効率的運営の努力	7	発注及び事務の効率化等による経費削減	■横浜市に準じた経理規定に基づいた、支出を最小限に抑える取組	実施	実施	-	【成果】 ・発注及び事務の効率化により超過勤務の抑制にもつながり、適切な施設及び設備管理とともに、経費削減に努めることができました。電力受給の入札により、支出を抑制した分、設備の充実をはかることができました。 【課題】 ・外的要因に大きく左右されやすい光熱水費の執行管理が必要となります。 ・経費削減のため、経験のない修繕や工事等の発注では、高品質で低価格の発注先を探すことが課題です。	【評価できる点】 ・経費削減に向けた効率的な運営に努め、適切に業務を遂行したことを評価する。 【改善が必要と考えられる点】 ・今後も事務や施設・設備運営の効率化等に努め、経費削減を期待する。
			■事務用品の再利用化の推進	実施	実施			
			■広報物の発送の効率化による経費の削減	実施	実施			
			■計画的な経理処理による手数料の削減	実施	実施			
8	適切な施設及び設備管理による経費削減	■施設・設備の効率的な運用による経費削減	実施	実施	-			
		■施設・設備の現状把握と修繕計画による支出の平準化と修繕費の抑制	実施	実施				
		■早期の修繕実施による長期における経費削減	実施	実施				
9	職員の業務の効率化による経費削減	■職員の業務の効率化への意識を統一するための職員会議や面談	実施	実施	-			
		■業務の発注へのコスト意識及び職員の超過勤務削減による経費削減	実施	実施				
10	展覧会や講座等の事業にかかる経費削減	■作家や講師との協働での事業企画による経費削減	実施	実施	-			
		■企業からの現物協賛の受入れ等による経費削減	実施	実施				

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
						【成果】	【評価できる点】
						【課題】	【改善が必要と考えられる点】
評価項目		H28年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標			説明	自己評価	行政評価
						<p>「文化芸術活動拠点としての機能」、「市民の文化活動への支援」、「次世代育成」、「質の高い施設運営管理」、以上の4つを強化ポイントと掲げ、共同事業体である財団と西田装美株式会社のそれぞれの専門知識を活かしたきめ細やかな施設運営を行った結果、満足度・実績数等、業務全般においてほぼ目標を達成することができました。</p>	<p>第3期指定管理初年度として、概ね計画通りに事業が実施された。今年度は3つの自主企画展全てで、目標入場者数を1,000人以上上回る入場者数を記録したことを評価する。また、「ハマキッズ・アートクラブ」や「大人のためのアトリエ講座」といった受講型の自主事業も参加者数が目標を上回った。今後もより多くの入場者数及び参加者数を期待する。</p> <p>「横浜音祭り」や「フォトヨコハマ2017」といった横浜市の文化事業と連携が図られたことを評価する。今後も積極的な連携が進められることを望む。</p> <p>施設の管理運営について、共同事業体間で連携し、適切に行われたことを評価する。今後も収蔵品の管理等を含め、適切な施設の管理運営を継続して行われることを期待する。</p> <p>一方で、横浜市民ギャラリーあざみ野との情報連携や、来館者数は目標未達成となったので、課題の解決に向けた取組の検討が必要である。</p> <p>次年度以降もPDCAを回し、魅力的な自主事業の実施と、安定した施設運営を期待する。</p>